



262号
2021/4

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
Eメール:t_taizan@yahoo.co.jp



黄金博物館の受付：台湾の観光地として有名な九份のすぐ近くに、日本統治時代、金と銅の産地として繁栄した鉱山町「金瓜石」がありました。思い立ってそこまで、バスで行ったのですが、あまり時間が無かったので、受付の建物を覗いただけでした。機会があればゆっくり見学したいものです。

(台湾屏東県東港 2016年4月 佐々木健之)

'わんりい' 2021年4月号の目次は20ページにあります

今月の言葉は、日本語では「習うより慣れよ」と言い慣わしていますが、あまりぴったりとは言えないように思いますがどうでしょうか。

・>・>・>・>・>・>・>・

北宋の時代に、陳堯咨ちんぎょうしという弓の名人がいました。ある日、彼が裏庭で弓の練習をしていると、10回のうちほとんど百発百中、的の中央に矢が当たるので、見ていた人たちは皆、拍手喝さいで、彼の腕前をほめたたえました。しかし、そんな中で一人の油売りの老人だけはかすかに頷いただけでした。

陳堯咨は、それを見ると不愉快そうに、その老人に尋ねました。

「ご老人、あんたは私の弓の腕前をどう思うかね？」

すると、その油売りの老人はゆっくりと答えました。

「私は弓を射ることはできませんが、油を器にそそぐことはできますよ」

と言いながら、老人は瓢箪の口に一枚の穴あき銭を載せ、油桶から柄杓一杯の油をくみ出すと、柄杓を高々と掲げて、銅銭の穴に向かって油を注ぎ始めました。油は銅銭の穴を通過して、瓢箪の中へ全部入りました。一滴たりとも外にこぼれ出ることはありませんでした。取り囲んだ人たちはびっくりして、老人の技をほめたたえました。油売りの老人は、静かに言いました。

「私のこの技も、弓の技と同じで、何の奥義もありません。唯々慣れれば、だれにでもできる技ですよ」

・>・>・>・>・>・>・>・

言葉の意味：何事も熟練すると良い方法を編み出す、或いはコツをつかむ。

使い方：彼は毎日、字の練習を繰り返して、熟練したので、今では彼の字はますます上手になっている。

・>・>・>・>・>・>・>・

日本語では、初めに紹介したように「習うより慣れよ」と言い慣わされますが、ちょっとズレているかもしれませんね。少し硬い言い回しですが、敢えて言えば、「熟練が技巧を生む」といったところでしょうか。

舞台は今から1000年ほど前の北宋時代ですが、このお話は、「鏡花縁」という白話長編伝奇小説に登場するそうです。この本は、今から250年ほど前の清朝けんりゅう・乾隆帝りじょんの時代の人、李汝珍が書いたもので、天界の仙女た

ちが地上世界で珍しい国々を旅したり、中国で初めて女性のための科挙が実施されるというお話などが語られる、100回の章回小説です。

この「鏡花縁」という本は、文学作品としてはあまり高く評価されていませんが、女権の提唱がなされていると注目されています。天界から下界へ下っていた仙女が則天武后となり、女性のための科挙を実施して、天界から追放された花の精たち100人がこの科挙に合格して架空の国で活躍するお話も出てきます。架空の国の中には、女性が治める国があり、そこでは男性が家事をしているのです。つまり、女性の能力を認めない現実の社会を風刺しているのです。

儒教思想で固めて、何千年も男社会が続いて来た中国で、300年も前に女性の能力を認め、活躍させるようなお話が書かれるなんて、以前ちょっと触れた、孟子が提唱した「国民には、王様を選ぶ権利がある。国民を幸せにするのが良い政治だ」という考え方と同様、びっくりさせられますね。

つくづく、中国の懐の深さを感じます。



挿絵：満柏

漢代樂府「有所思」

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

無類の芸能好きだった漢の武帝は専門の役所を設けて各地の民歌俗謡を収集させ、それをもとにして演奏や作詞作曲などの仕事もさせました。この役所の名前を「がふ樂府」といいます。後にここで作られる歌詞のスタイルが「がふたい樂府体」または「樂府」と呼ばれるようになりました。後世、「がふ樂府」といえば一般にこの樂府体の詩形を指します。

[原詩]

yǒu suǒ sī hàn yuè fǔ
 有 所 思 汉 乐 府
 yǒu suǒ sī nǎi zài dà hǎi nán
 有 所 思， 乃 在 大 海 南。
 hé yòng wèn yí jūn shuāngzhū dài mào zān
 何 用 问 遗 君， 双 珠 玳 瑁 簪，
 yòng yù shào liáo zhī
 用 玉 绍 繚 之。
 wén jūn yǒu tā xīn lā zá cuī shāo zhī
 闻 君 有 他 心， 拉 杂 摧 烧 之。
 cuī shāo zhī dāng fēng yáng qí huī
 摧 烧 之， 当 风 扬 其 灰。
 cóng jīn yǐ wǎng wù fù xiāng sī
 从 今 以 往， 勿 复 相 思，
 xiāng sī yǔ jūn jué
 相 思 与 君 绝！
 jī míng gǒu fèi xiōng sǎo dāng zhī zhī
 鸡 鸣 狗 吠， 兄 嫂 当 知 之。
 fēi hū xī
 妃 呼 豨！
 qiū fēng sù sù chén fēng sī
 秋 风 肃 肃 晨 风 颺，
 dōng fāng xū yú gāo zhī zhī
 东 方 须 臾 高 知 之。

[訓読] おもいびと 所思有り

おもいびと 所思有り 乃ち大海の南に在り
 何を用ってか君もんいに問遣せん
 双珠玳瑁しんぎよくの簪 玉を用いて之を紹繚す
 聞く、君たしんに他心有りと
 拉雑して摧いて之を焼かん
 摧いて之を焼き 風そに当って其の灰あを揚げん
 今いおう従り以往 復また相思そうしする勿なれ
 相思、君たと絶とりつ 鶏鳴いぬほいて狗吠いぬほゆれば
 兄嫂けいそう当これに之を知るべし 妃呼豨きこき
 秋風しゅうふう 肃肃しゆくしゆく として晨風しんふう颺たてば
 東方しゆう須臾ゆにして高これく之を知らん

*所思=思う所。思い人びと。恋人。*乃=すなわち。ところが。しかし。反接を導く副詞。*問遣=贈物する。*双珠=対になった珠飾り。*玳瑁=タイマイ。ウミガメの一種。甲羅が美しいので装飾品として使われる。*簪=かんざし。冠を固定するピンのこと。役人にとっての必需品でもある。*紹繚=繫いで巻き付ける。*他心=心変わり。*拉雑=何もかも一緒くたにして処理する。*当風=風に当って。*従今以往=これより先。*勿=なかれ。禁止を表す語。*相思=恋すること。*與=〜と。*鶏鳴狗吠=鶏が鳴き犬が吠える。早朝の時刻を表す。*兄嫂=兄と兄嫁。*当知=当然知るはずだ。*妃呼豨=意味不詳。俗謡の中の囉子言葉のようなものか。*肃肃=風の音の擬声語。*晨風=夜明けの風。*颺=涼風。涼風が吹く。*東方=朝の太陽。太陽神。お天道様。*須臾=暫くして。

[和訳] 思いびと

思うお方はつれなくて 遠く南の海の果て
 何をあなたに贈りましょ 珠玉たまを飾たいまいった玳瑁の
 丹精かんざしこめた簪も 心かんざしがわりを知たったいま
 みんな砕いて焼き捨てて 焼き捨てて
 風のまにまに飛ぶがいい これでもう
 二人の愛はおしまいよ きれいさっぱり忘れましょ
にわとり 鶏鳴ほいて犬吠ねえさまえりや 嫂様ねえさまたちにも知られましょ
 アイヤーイヤイヤ 秋風あきかぜさくさく夜が明けりや
 お天道てんと様にも知られましょ

この作品は北宋の文人かくもせん郭茂倩の編纂した『樂府詩集』の〈鼓吹歌辞・鏡歌十首〉の中の一詩として採録されているものです。作者は不明。鏡とは軍中で鳴らすドラのこと、鏡歌とは軍楽隊の鼓吹曲のことですが、歌詞の内容は軍楽とは全く無関係の恋歌、しかも失恋の歌になっています。残念ながら楽譜も演奏法も伝わっていないので、どんな曲調であったか分かりませんが、おそらく失恋した女性の悔しい思いを、強烈な軍楽のリズムに乗せて歌い上げたものかと思われます。

ただ気になるのは「鶏鳴狗吠」以下の5句です。この部分はこれまで様々な解釈がなされてきましたが、いずれも決め手になるものはありません。一つ手掛かりになるのは「妃呼豨」の3文字です。これがもし囉子言葉の類だとすれば、末尾の5句は、未練がましい秘密の恋を揶揄する戯れ歌だったのかも知れません。この歌詞の主人公はこんな戯れ歌を口ずさみながら、失恋の痛手を癒していたのでしょうか。

杜甫の『月夜憶舎弟』

報告:花岡風子

コロナで数か月のお休みもあった漢詩の会ですが、今年最後の漢詩の会は、前回の李白に引き続き杜甫の詩で締めくくることになりました。杜甫の詩はこれまで何首も教えていただきましたが、今回の講座で杜甫についてまた、新たな一面を知ることが出来ました。

今日の作品は『月夜憶舎弟』(月夜舎弟を憶う)という五言律詩です。詩の解説に入る前に植田先生から、杜甫の人生を年代順に追っていく解説がありました。

杜甫は李白より11歳年下で、李白と並ぶ中国史上最高の詩人として、李白が詩仙、杜甫が詩聖と呼ばれていることは、皆さんご存知でしょう。杜甫はなぜ「聖」なのでしょう。「聖」というのは「聖なる人」を意味します。儒教においては「孔子」が第一に挙げられます。ですから「詩聖」と言えば、詩の世界において「孔子のような聖人」ということになります。では、杜甫と儒教は関係あるのか？というと、それが大いにあるのです。杜甫は名門の生まれで、祖父は初唐の宮廷詩人として有名な杜審言としんげん、更に先祖を辿ると西晋時代の武将であり儒学者でもあった杜預とよ(日本では一般に「どよ」と読むようです)に行き当たります。杜預は「破竹の勢い」という言葉を初めて使った人として有名で、杜甫は杜預を先祖に持ったことを非常に誇りに思っていました。杜甫という人の根幹には「儒教の教え」という大きな軸がありました。「杜甫はいわば儒教の原理主義者でありました。生涯を通して、儒教にそった正しい生き方をし、政治にも理想を求めたので、現実を直視する詩の内容とは裏腹に、行動ではいつも現実離れしていたのです」と植田先生。なるほど！私もようやくここに来て、杜甫と儒教が結びつき、これまで鑑賞してきた作品と超人的な生き方の原点をみた気がしました。

杜甫はこのような名門の家庭に育ち、6歳で詩文を作り、13歳で洛陽の文人サロンに仲間入りするという天才少年だったようです。その後、知人を頼

り、各地を転々と見聞し、24歳で科挙の試験を受けますが、合格しませんでした。当時、24歳で超難関試験に不合格でもさほどの痛手でもなく、その後また旅に出ています。32歳の時に、洛陽で初めて噂に聞く李白と出会います。翌年、二人は再会し齊魯の地(山東)で交流を持ちます。わずか一年余りの交遊でしたが、思いがけない李白との出会いは杜甫に大きな影響を与えたようです。杜甫はこの後もいつも李白のことを思い出し、詩にも書いています。李白と杜甫が酒を酌み交わしながら、どんな話をしたかは分かりませんが、李白が玄宗皇帝の側で詩を詠んでいた武勇談を聞くうちに、杜甫は「自分も李白のように、いや、不器用な李白よりはもっと上手く玄宗皇帝に仕えられる」と思ったのかもしれませんが。その後、杜甫の理想はますます膨らみ、とうとう“致君堯舜上”という、とてつもない野望に辿りつきます。“君”とは玄宗皇帝のことです。玄宗皇帝を盛り立て、歴史上の聖君として誉れ高い“堯帝、舜帝”より上の存在になれるよう尽力しよう。そして、自分は憧れの諸葛孔明のように、玄宗皇帝のナンバー2の存在になろう、と。杜甫がこのとてつもない野望にたどり着いたのは、やはり李白の影響もあったのでしょう。

しかし、杜甫にとって悲劇だったのは、この時の玄宗皇帝は既に楊貴妃に夢中。日夜遊び狂い、政治の第一線から退いてしまっていたのです。二年後の747年、玄宗皇帝の命により、一芸に秀でた者のための試験が行われ、杜甫も受験しましたが、結果は全員不合格という事でした。自分たちより優秀な者が役職に就くのを恐れた側近達の工作によるものですが、それに対しても玄宗皇帝は何も口出し出来なかったほど、政治の中心から遠のいていたのです。

杜甫は友人に取りなしを頼んだりして、詩を玄宗皇帝に届け続け、玄宗皇帝も杜甫の才能を認めたものの、李白の時のように杜甫を取り立てる気力も権力もありませんでした。756年に安祿山の乱により

長安が陥落するまで、杜甫は小さな役職に就きながら、次々と生まれる子どもたちを抱えて困窮した日々を過ごします。乱の前年には右衛率府胄曹参軍になり、乱の際には長安城内に軟禁されます。玄宗皇帝が蜀に避難し、時の皇太子（後の肅宗）が地方で即位宣言をした折は決死で追いかけています。肅宗はそんな忠誠ぶりを示した杜甫に左拾遺さしゆいの位を授けます。しかし、杜甫の理想主義は実務を重視する肅宗には受け入れがたいものであったようです。翌年、文人で将軍であった房琯ぼうかんが賊軍に大敗し弾劾された折、彼を弁護したことで更に肅宗の怒りを買ひ、左遷させられてしまうのでした。この後も不幸は続き、翌年、赴任地一帯が飢饉に見舞われます。杜甫はやむなく官職を捨て、家族を連れ、飢えに苦しみながら秦州（今の甘肅省天水市）に辿りつきました。この詩は食うや食わずの厳しい現状の中で書かれたものです。

「この詩には杜甫の人生経験と中国の歴史がそのまま反映されています。」と植田先生。

「意味を見てみましょう。」

首聯

戍鼓人行を断つ。
邊秋一雁の声。

戍(じゆ)鼓(こ)とは、衛兵の鳴らす銅鑼のこと。夕暮れと共にドラが鳴り響き、帰兵命令が出ると、辺りから兵士たちの姿が消える。辺境の砂漠地帯の秋空に一羽の雁が鳴きながら飛んでいく。

秋という字からも、戦争、刑罰など殺伐とした厳しいイメージが伝わります。悲秋という言葉が連想されます。この頃の唐王朝は、内乱のほとぼりが冷めやらぬ中、杜甫の道中に程近い辺境の地では、チベット族の侵入に悩まされていました。

頷聯

露は今夜より白く、
月は是れ故郷より明らかなり。

露が白いというのは「白露」のこと、二十四節気では秋分の一つ手前、9月8日頃に当たります。今ではまだ残暑厳しい頃ですが、二十四節気は、漢の時代

の都あたりの気候ですから、朝夕はもっとひんやりしていたのでしょう。今夜から白露に入るが、今見ているこの月は故郷も明るく照らしていることだろう。漢詩の中で「月」はお馴染みの故郷、家族の団欒を指すキーワードですね。

頸聯

弟有るも皆分散し、
家の死生を問う無し。

だが、そこに暮らしていた弟達は散り散りになってしまい、安否を問おうにも一族の住んでいた家さえも無い。

尾聯

書を寄するも長に達せず、
況や乃ち未だ兵を休めざるをや

「長」はつねに、と読み、手紙をいつ出しても届かない。まして、この時世、戦乱は止む気配がない。

玄宗皇帝を堯舜の上を行く聖帝にすべく、自分がかつての李白のように詩を書いて君側に侍り、善政を敷いてもらうよう盛り立てる、という壮大な目標に命をかけてきた結果がこれ、とは何という不運でしょう。官職も投げ打ち、日々家族が飢えに直面しているだけでなく、かつて繁栄を誇った実家も、戦乱でなくなり、家族の消息も分からない。正にどん底の状態です。

最後の一句は、戦争を一日も早く終わらせて欲しい、という気持ちが伝わってきます。この頃の杜甫はさすがに玄宗皇帝に失望しきって、かつての夢も露と消えていたことでしょう。まるで荒地のど真ん中に裸同然で立っているかのような、寂寥感が漂っていて、読んでいて重いですね。

唐王朝はそもそも異民族の血が入った王朝で、宗教としては道教を重んじていました。しかも玄宗の時代は、仏教をはじめ回教（イスラム教）、景教（キリスト教）、拝火教（ゾロアスター教）など異国の宗教にも寛容でした。必ずしも儒教を格別に重んじていたわけではありません。だから、玄宗皇帝に儒教原理主義者の杜甫が理想を求めたのは、とんだお門違いだったのでしょう。李白はもともと異民族

との混血児という説もあるくらいですから、玄宗皇帝とはそういう意味でも気質的に似通っていたのかも知れません。杜甫はその辺の空気が読めなかったんですねえ。まあ、空気が読めないぶん、いじらしい様な可愛らしさがありますね。こうしたカン違いと誤解の中で、歴史は進んできたんですね。だからこそ文学が生まれたともいえます。何もかも予定通り順調であれば、そもそも偉大な文学は生まれませんね」と植田先生。

ふと、今のように SNS が発達した時代なら、杜甫は理想を抱いた時点で、玄宗皇帝がすでに楊貴妃に魂を抜かれている情報を得て、人生の方向転換が出来たかもしれないと思ってしまいました。でも、そんなことになれば杜甫が 1000 年以上も読み継がれるような名作を残すこともなかったでしょう。「スレ違いと勘違い」から生まれる「理想や喜び」、そして「絶望や悲しみ」……。絶望や悲しみは、出来れば避けて通りたいですが、それは同時に「創造のエネルギー源」でもありました。

ぬるま湯のような幸せはもちろん有難いものの、強烈な文学を生み出すにはパワーが足りないようです。さて、当時の杜甫はもちろん玄宗皇帝の体たらくを知らないままに、皇帝はついに落ちるところまで落ち、クーデターにより国は混乱してしまいます。世界一の大都市として栄えた美しい都も人々の暮らしも破壊し尽くされました。今、現在アメリカで起きていることもこれに近いものがあるようですが、どうか一般市民が危険に晒されることがないように祈るばかりです。

さて、改めて杜甫の人生を振り返る時、やはり理想と現実との大きな隔たりを感じずにはられません。「杜甫のことは偉いとは思いますが、私はついていけないなあ。かと言って、李白のような破天荒な生き方も出来ないしなあ。自分だったらどうしただろうと色々考えるのが、老後の楽しみでもあります。歴史のロマンは老いが満ちると書いて『老満』なんですよ」との植田先生の素敵な一言に一同から笑いが漏れました。

それにしても、「老満(ロマン)！」、なんて素敵な言葉でしょう。日本人は特に老いを嫌う傾向にある

と思いますが、人生 100 年時代、私は老いを避けたり嫌ったりしたらもったいない、と思っています。最近、どこかでこんな話を聞きました。「瑞々しさと年齢は関係ない、樹齢数百年の樹木も若い木と同じように、春になれば青々とした若芽を付けます。歳をとったからと言って、枯れた葉をつけるわけではないのです」私もそう思います。いくら歳が若くても心に希望がなければ、心の老人になってしまいます。

今年はコロナで人と人との繋がりという心の栄養が分断されてしまいました。痛ましいことに、若者の自殺者数はコロナの死亡者数を上回っているとのこと。人は心に希望や理想があるからこそ生きられる、ということを感じます。

杜甫が自ら命を断つようなことをしなかったのは、心に希望と理想を失わなかったからではないでしょうか。人間にとって何が必要なのか、この作品を通して改めて考えさせられた気がしています。コロナ嵐が吹き荒れた 2020 年、今後の見通しが不透明なまま年の瀬を迎えようとしています。状況がどうであれ、生き抜かなくてはならない時代が来るかも知れません。

そんな時、杜甫の夢破れた悲惨な人生こそが私達に生きる勇気を与えてくれる一筋の光になるのではないかと思いつつ、今年最後の原稿の筆をおくことにします。

yuè yè yì shě dì
月 夜 忆 舍 弟
dù fǔ
杜 甫

shù gǔ duàn rén xíng
戍 鼓 断 人 行
biān qiū yī yàn shēng
边 秋 一 雁 声
lù cóng jīn yè bái
露 从 今 夜 白
yuè shì gù xiāng míng
月 是 故 乡 明
yǒu dì jiē fēn sǎn
有 弟 皆 分 散
wú jiā wèn sǐ shēng
无 家 问 死 生
jì shū cháng bù dá
寄 书 长 不 达
kuàng nǎi wèi xiū bīng
况 乃 未 休 兵。

中部崛起、中原崛起と「中原経済区」

文と写真=村上直樹

昨年4月にこの雑感を書く機会をいただくようになってから、早1年が経った。今回はまず、これまで怠ってきた、河南省の地理的位置を確認することから始めたい。その上で、この地域における近年の発展につながる計画・政策を紹介する。とくに注目するのは、「中原」の範囲を国レベルで認定したとも言える「中原経済区」の設立についてである。

地図は燕京中国語学校八王子のホームページにある「中国写真館」より拝借した。現在の中国は西に大きく版図を広げたため河南省は東よりに位置しているように見えるが、五帝時代から続く中華の地理的印象からするとやはり河南省は中心（まさに中原！）と言えるのではないかと思う。また、河南省の名は河すなわち「黄河」の南という意味でつけられたものであるが、黄河は氾濫を繰り返して流れを移動させているため、現在では黄河の北（本来は「河北省」）も一部河南省に属していることもわかる。

この地図には華北、華中、といった地域区分が示されているが、より大きな地域区分として中国大陸の31省（省・直轄市・自治区）を以下の4地域に分けるのが一般的である。すなわち、東部（北京、天津、河北、上海、江蘇、浙江、福建、山東、広東、海南）、中部（山西、安徽、江西、河南、湖北、湖南）、西部（内モンゴル、広西、重慶、四川、貴州、雲南、チベット、陝西、甘肅、青海、寧夏、新

疆）、東北（遼寧、吉林、黒竜江）の4大地域である（かつては、東・中・西の3大地域区分が用いられていた）。

さて、今を遡ること40年余り、1978年12月18日から22日にかけて、中国共産党の第11期(届)中央委員会第三次全体会議（略して中共十一届三中全会）が北京で開催された。この会議により、中国はそれまでの計画経済体制の下で対外関係も限られていた状態から、いわゆる改革開放路線へと転換を図ることになる。そうした路線転換は最高実力者・鄧小平が主導するものであった。

国内の地域開発政策に関しても鄧小平の「先富論」（“先富帶動後富”）が指導理念となった。発展可能な地域が先に豊かになることで、遅れた地域もやがて豊かになるという考え方である。「経済特区」、「沿海開放城市(都市)」等を建設・指定し、外国資本を積極的に受け入れて、それらの地域を先に発展させようとしたのも、そうした考え方に基づく政策である。

「経済特区」は1979年7月に深圳、珠海、汕頭（以上、広東省）、厦門（福建省）の4か所が指定され、1988年4月には海南経済特区が追加された。1979年に指定された4か所は2つの省の下の行政区域（地級市）が対象であるのに対して、1988年の海南は、それまでの広東省海南行政区が独立して海南省となったのと同時に指定された省レベルの経済特区である。なお、2010年に新疆ウイグル自治区の喀甚（カシュガル）および霍爾果斯（コルガス、ホルゴスとも）の2地区が指定され、「経済特区」は計7か所となったが、一般には「経済特区」と言うと海南までの5地区を指す。

他方、1984年に「沿海開放城市」として指定されたのは、大連（遼寧省）、秦皇島（河北省）、天津（直轄市）、煙台、青島（以上、山東省）、連雲港、南通（以上、江蘇省）、上海（直轄市）、寧波、温州（以上、浙江省）、福州（福建省）、広州、湛江（以上、広東省）、北海（広西チワン族自治区）の14都市である。その後、營口（遼寧省）が加えられ（1985年）、さらに煙台から分離されて市に昇格した



燕京中国語学校八王子 HP「中国写真館」より

威海（山東省）が指定されたため（1988年）、16都市となった。「沿海開放城市」には対外開放のための、たとえば、外国資本を利用したプロジェクトの認可権限等が与えられた（これらの都市のうち、秦皇島については『わんりい』誌上で、1月号から吉光清氏が詳しく紹介されている）。

こうして見ると「経済特区」、「沿海開放城市」ともに、広西チワン族自治区の北海を唯一の例外として、ほぼすべてが東部地域に属する。そうした対外開放政策の効果もあって、東部（沿海）地域は先に急速に発展したものの、東部とその他地域との経済格差は「先富論」が説くようにやがて縮小するどころかむしろ拡大してしまった。中国政府もそれに気づき、格差是正に向けて大規模な地域振興政策を実施することになった。

まず、2000年には西部地域の振興を目指した「西部大開発」計画が、つづいて、2003年には東北地域を対象とした「東北振興」が動き出した。つまり、中部地域は後回しとなってしまったのである。当時、「不東不西、不是東西」（「東（部）でもなく、西（部）でもなく、役立たず」といった自嘲気味のセリフが中部地域の中からも聞こえてきた。そうした状況についてはこの雑感第1回（昨年4月号）でも少し紹介した。

その後、ようやく「中部崛起」（「中部台頭」）のスローガンの下、中部地域の振興が国家戦略として取り上げられるようになり、そこに「中原崛起」の役割が見いだされるようになっていく。より具体的には「中原経済区」という広域を指定することで都市間の連携・協力を促進する構想の実現である。

「中部崛起」という言葉が現れたのはかなり以前、1988年に湖北省が省の発展目標として掲げたのが最初であるとされている。たとえば、1989年9月5日付け『人民日報(北京版)』の第4面には「奮力在中部崛起」と題した中国共産党湖北省委員会書記の文章が掲載されている。その中で、省都である武漢を中心とした建国以来40年の湖北省の発展を自賛しつつ、今後はそれを中部全体の発展にどう結びつけるかが重要であると述べられている。

それから10数年を経た2004年3月5日、全人代における政府工作(活動)報告で温家宝首相がこの概念を改めて提起した。文字にすると約17,000字に及ぶ政府活動報告の第二部「2004年の主要任務」の中

に「統籌区域協調發展，推進西部大開發和東北地区等老工業基地振興」（「区域協調發展を統一的に計画案配し、西部大開發と東北地区等伝統的工業基地の振興を推進する」という項目があり、そこに「促進中部地区崛起」の文言が見える。中部（地区）崛起を中央政府としても促進する方針であることが明確にされた。

この方針が具体的な施策となるのには、さらに5年半の歳月を要するが、ともかくも2009年9月に国務院が『促進中部地区崛起規劃(計画)(2009-2015年)』を発表し、中部地域もようやく他の3大地域に追いついた形となった。

2009年に発行された『瞭望東方週刊』(2月16日号)では「尋索区域大哥」（「区域の兄貴分を探せ」と題する特集が組まれており、その中の記事「無龍頭的中部崛起」（「龍の頭のない中部崛起」）には、当時の中部地域では、武漢（湖北省）、長沙（湖南省）、鄭州（河南省）、合肥（安徽省）、南昌（江西省）等が我こそ中部の雄であると競い合っており、行政区域を越えて広くプラスの影響を及ぼすような龍の頭（あるいは兄貴分）が存在しない、と指摘されている。そのことが中部崛起を遅らせているというのである。

鄭州を中心とする河南省について言えば、中部崛起を可能にするにはまず「中原崛起」が実現しなくてはならないという考え方が生まれてきた。そしてその流れが、中央政府による省の垣根を超えた地域概念である「中原経済区」の設立として具体化されるのである。以下、その経緯を簡単に振り返ることにしたい。

中原崛起は2003年、当時の河南省のトップ・李克強河南省共産党委員会書記（現・国務院総理）によりはじめて提起されたとされている。2003年3月14日付け『人民日報(北京版)』を見ると、北京で開催中の全人代に河南省代表として参加していた李克強書記に対するインタビュー記事「埋頭苦幹實現中原崛起」（「中原崛起の實現に一所懸命取り組む」）が掲載されている。

その後、2004年に李書記は河南省を去ったが、2010年に入ると河南省共産党委員会から「中原とは何か？」（“什么是中原？”）、「中原崛起とは何か？」（“什么是中原崛起？”）、「なぜ中原崛起が必要なのか？」（“为什么要中原崛起？”）、「中原崛起

をどのように実現するのか」(“怎么实现中原崛起?”)、「河南省は中部地区崛起の先頭を行くことができるのか?」(“河南能否走在中部地区崛起前列?”)といった一連の問いが発せられるようになり、「中原経済区」実現の機運が急速に高まった。

実は「中原経済区」構想は、かなり以前の1985年9月に発足した「中原地区经济技术协调会」という組織に遡ることができる。これは当時の河北省邯鄲市市長と河南省新郷市市長が共同で提唱したもので、山西省、河北省、山東省、河南省から10余りの都市が自発的に参加していた。この組織は「中原経済区」の原型と見做されている。すでに省を跨ぐ地域連携であったことは注目してよいであろう。

その後2010年11月には河南省から『中原経済区建設綱要(試行)』という計画案が中央政府に上申され、ほぼ同時期の2010年12月には中央政府の総合的な国土開発計画である『全国主体功能区規劃』において中原経済区が全国重点開発区域、すなわち、国家が重点的に工業化・都市化を推進する地域、に含まれることになった。

この国土開発計画において中原経済区の機能は①全国的に重要なハイテク産業、先進的製造業および現代的サービス業の基地、②エネルギー原材料の基地、③総合的交通の要と物流の中心、④区域レベルの科学技術イノベーションセンター、⑤中部地区における人口・経済の集積地域、であるとされている。

これ以降、中原経済区は国家戦略レベルの政策文書に現れるようになり、2011年3月に発表された第12次五カ年計画では「大力促進中部地区崛起」の章に中部崛起を実現するための重要な拠点区域であると明記された。この時点では中原経済区の地理的範囲は確定していなかったが、その後、いくつかの行政手続きを経て、2012年11月17日に國務院が『中原経済区規劃(2012-2020年)』を承認し、中原経済区が正式に発足した。

この『中原経済区規劃』には「まえがき」で「中原経済区」は『全国主体功能区規劃』が明確に定める重点開発区域を基礎とし、河南全省を覆い、周辺地域に延びる経済区域である。地理的な要衝であり、穀物生産の優位性が突出しており、市場の潜在力が巨大であり、文化的意義が深く、全国的な改革発展という大局にあって重要な戦略的地位を有す



中原経済区 (「Baidu 百科」より)

る、といった内容が明記されている。

具体的な地理的範囲は河南省全域(鄭州市、開封市、洛陽市、平頂山市、安陽市、鶴壁市、新郷市、焦作市、濮陽市、許昌市、漯河市、三門峽市、南陽市、商丘市、信陽市、周口市、駐馬店市、濟源市)、淮北市、亳州市、宿州市、蚌(蚌)埠市、阜陽市および淮南市鳳台縣、潘集區(以上、安徽省)、聊城市、荷澤市および泰安市東平縣(以上、山東省)、邯鄲市、邢台市(以上、河北省)、晋城市、長治市、運城市(以上、山西省)の5省に跨る30の市と3つの県・区に及ぶ(地図参照)。その総面積は28.9万平方キロメートル、2011年時点の総人口は1億.7900万人である。

なお、かなり細かい話になるが、以上の地理的範囲について特徴的なのは、全域が含まれている30の市以外に、その下の行政レベルである3つの県・区——鳳台縣、潘集區および東平縣がいわば飛び地の形で含まれている点である(たとえば、鳳台縣が属する淮南市は市としては参加していない)。とくに、安徽省淮南市潘集區は最終段階で含まれることが決まった。その背景にどのような政治的動きがあったのかはわからないが、潘集區が「中原経済区」に大いに期待していたことは間違いない。

この「中原経済区」が正式に設立された2012年11月当時、私は河南省・開封市にしばらく滞在していたので、地元の報道などから、ようやくの悲願達成に対する祝賀ムードを直接感じる事ができた。今回は設立経緯を追うだけで紙幅が尽きてしまったが、次回は当時の様子も含めて、その内容を見ることにしたい。

中国の面白い神話物語・伝奇物語(5)

顧傑

皆様こんにちは。

前回の「聶隱娘」の物語はいかがでしたか？

唐代末期における、一人の女性に起こった奇々怪々な物語でした。珍しいお話を伝えるのが伝奇小説、とはいえ、この「聶隱娘」は、妖怪や魔物が出てきたり、世にも不思議な体験をするといった他のお話とは違います。このお話は紛れもなく伝奇物語に分類されますが、他と比べるとこの物語には、少し違和感を覚えます。これは私だけの感覚でしょうか？ 皆さまはどんな風に感じますか？

今回は、この物語で私が気になるところをお話してみたいと思います。これは、あくまでも個人的な考えであり、ネット上でも様々な推測がなされていますが、それらを含めて、明確な資料がないことはお断りしておきます。そのうえで、皆さまも少し私の妄想に付き合ってください。

~~~~~

ではまず、物語の背景から簡単に紹介させていただきます。

唐の王族李適（西暦742年～805年）が14歳の時、安史の乱が勃発。栄華を極めた唐朝も「盛唐」から衰退へ向かうきっかけになった。李適は38歳の時（780年）に第9代徳宗として即位、軍事・政治・経済などに尽力し、そのあとに続く憲

宗統治下の元和中興の基礎を築いた。

魏博（渤海湾から黄河以北の地域）には、田承嗣という節度使がいた。節度使には、軍を指揮する皇帝の使い、という意味がある。安史の乱の首謀者安禄山もまた、軍権を掌握する節度使であり、反乱には、何人もの節度使が参加していた。この田承嗣もまた、反乱に加わった節度使の一人であった。

しかし唐朝の勢力が下がり坂とはいえ、衰退は始まったばかりだったので、唐朝の力は侮りがたく、その優劣は明らかだった。田承嗣は、途中から反乱軍を裏切り、唐につくことによって、生き長らえることができた。とはいえ、一度は反乱した部隊なので、朝廷との間にできた溝が簡単に埋まることはなかった。

田承嗣には、子供が11人もいたが、どんな事情からか、節度使の位を甥に譲ったのだった。しかしこの甥は性格が悪く、節度使の権限を得るとすぐ唐朝に対する反乱を起こした。唐朝は、連年の戦乱により弱体化しており、すぐに鎮圧することが出来なかった。

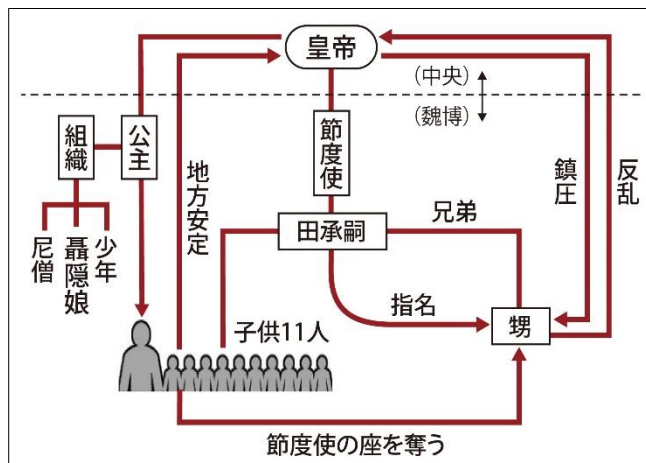
唐朝は密かに田承嗣の子供である田緒と接触し、そそのかして田承嗣の甥から節度使の権限を奪わせた。さらに朝廷は信頼の証として皇帝の娘を田緒に嫁がせた。

~~~~~

伝奇小説「聶隱娘」の主人公聶隱娘が生まれた魏博は、唐末、まさにこのような状況でした。この事実を理解したうえで、物語を見ていきましょう。

さて、早速ですが、皆様は、下記のような疑問を持たれたでしょうか？ もしまだでしたら、ここでちょっと考えてみてください。

- ① 聶隱娘の師である尼僧は、なぜ仏法ではなく武術を聶隱娘に授けたのでしょうか？
- ② なぜ聶隱娘を選んだのでしょうか？
- ③ 聶隱娘は、なぜ鏡磨きの少年といきなり結婚をしたのでしょうか？ 最後はなぜ独りだけ



「聶隱娘」の物語における唐代魏博地区関係図

で旅に出たのでしょうか。

④劉長官を暗殺しようとしたのに、なぜ小鳥などを撃つ暇があるのでしょうか。劉はなぜ暗殺のことを知っているのでしょうか。

⑤そもそも聶隱娘の物語は一体何でしょうか。何を表しているのでしょうか。

~~~~~

小説の中で、聶隱娘は奇術が使える暗殺者…といったイメージで描かれていますが、ちょっと視点を変えて、聶隱娘は 007 のジェームズ・ボンドなのだと考えて見たらどうでしょうか。

例えば聶隱娘の家を訪れた尼僧も、ただの尼僧ではなく、当時の唐朝秘密機関の長官で、魏博地域において人材発掘の任に当たっていたのではないのでしょうか。白羽の矢を立てたのが魏博の大將の娘であれば、疑われにくく隠蔽性が高いでしょうね。

秘密機関の要員訓練なら、仏法ではなく、武術や暗殺術を授けることは当然のことでしょう。

次に、ジェームズ・ボンドはいつも一人で戦っていますが、必ず敵の情報や情報部門からのオーダーを伝える、優秀なパートナーがいます。聶隱娘のパートナーというと、そう、鏡磨きの少年になりますね。おそらくあの少年もまた、唐朝から派遣されてきたスパイなのでしょう。直接暗殺する聶隱娘とは違い、目立たない存在である必要があります。現在とは違い、当時は金属面を磨いて鏡としていましたので、日常的に鏡を磨く仕事がありました。いかにも普通の仕事だからこそ、いろんな家に入出入りして情報を収集することができるし、特殊な身分も暴露される心配がないのでしょう。聶隱娘夫婦が結婚したらすぐにも外に引っ越して、家族とほとんど連絡がなくなったのも、二人の仕事がかかわっているのでしょう。

007 の作品を見る時は、「スパイたちはどうやって連絡しているのか」と気になりませんか？例えば映画「キングズマン2」では、細工されたお酒から、主人公が情報の所在を悟ったように、聶隱娘たちにも似たようなやり取りがありました。劉長官を暗殺しに行く途中、小鳥を撃ち落とそう

とするエピソードがありましたよね。一般的な認識では、ひそかに現地まで行ってさっさとターゲットを始末して逃げるのが良策ですが、彼らは、わざとスリングショットで小鳥を撃ち落とすなどして、劉の手下の注意を引いたのです。そこには、何か情報の伝達なり、確認なりがあったのでしょうか。

では、いったい聶隱娘の物語は何なのでしょう。おそらくすべては、唐朝政府が魏博地域を掌握するための策略だったと考えられます。

上記背景紹介の中で、信頼の証として、魏博の節度使の下に、唐朝皇帝の娘が嫁いできたことを覚えてますか？これは、明らかな政略結婚ですね。その目的は何でしょうか？目的は魏博地域の安定的な統治と考えられますが、それだけではなく、すでに二回も反乱を起こしたこの魏博の地を、内部から分化させようとしたのでしょうか。

そのため、皇帝の娘は魏博の地でスパイ組織を立ち上げ、活動を開始したとしても不思議ではないでしょう。聶隱娘、鏡磨きの少年、尼僧たちは皆、他でもなく、この皇帝の娘直属の部下なのです。そのため、魏博の勢力範囲が変わるたびに聶隱娘も新しい任務に就くことになりましたね。

そして最後、まさにジェームズ・ボンドみたいに、任務を終えたら自由な人生を過ごしたいと願っていた聶隱娘は、鏡磨きの少年や劉のもとから離れ、一人の旅に出たのでしょうか。

こんな側面から見ると、奇々怪々な物語のようですが、案外リアリティに富んだお話なのではないかと考えてしまいます。唐朝の末期になって中央政府の政権が危うい中、このようなスパイ集団の活動があって、反乱因子が少しずつ討伐されたからこそ、少し持ち直して、元和中興といった時代があったのではないのでしょうか。

そして私には、このような物語から少し当時の中央と地方の混乱が見えて来ます。歴史で学んだ事実が裏付けられたり、時にはそれとは違った事実が垣間見られたりと、興味深い発見があります。皆様にとって、伝奇小説はどのようなものなのでしょうか。そこにも興味を感じます。

また次回、お目にかかりましょう。



## 「秦皇島」をご存知ですか？……(3)

文と写真 吉光 清

鉄道駅「秦皇島」で高铁（中国の新幹線）を降りて乗客出口を通ると駅前広場に出る。広場から南側に市街が広がっており「迎賓路」が真っすぐ南に延びている（下の写真）。広場から階段で地上へと降りると駅前の店舗や小規模なビルが並び、軽食を売る露店もあって庶民的だ。「迎賓路」はずっと先で「人民広場」に突き当たる。広場を越えた先には「秦皇島南」駅、更には秦皇島港の埠頭があり、渤海がある。北と南を秦皇島駅と秦皇島南駅、東西を「新開河」と「大湯河」に囲まれた四角形の地域が海港区の中心的な市街地になっている。

### ■秦皇島市中心部の交通事情

市内バスの発着所は秦皇島駅の西側に隣接しており、此処からは11の系統別に路線バスが発着している。駅前を東西に走る「北环路」を西に少し進むと、長距離バスのバスステーションがあり、主要都市と結んでいる。北京空港からの直通バスも此処に入る。

市内バスの外装は都バスと似た黄緑色で統一され、車両は新しく、電気自動車なので排気ガスは出さない。路線番号は1桁又は2桁の数字で、バスの前後に表示されていて遠くからでも視認できる。均一料金の路線は1元で、暖房時期には2元になった。乗車時に現金を運転席横の料金箱に入れるがお釣りのシステムは無い。下車する時は停車ボタンで事前に合図し、車両の中央付近の降車口から降りるワンマンバスが一般的である。料金が距離によって異なる路線もあり、その場合は降車口の横に車掌が乗り、



駅前広場から「迎賓路」方面を望む(2016年11月撮影)

発車前や適当なタイミングで乗客に下車停留所を確認して料金を集めていた。お釣りも出してくれた。

車内には次に停車する停留所名が放送で流れるとともに停留所名が表示されるので、降りる停留所名を知っていれば安心だが、手前の停留所で乗降客がおらず通過されたことを知らないと事件になる。

主要路線は運行本数が多く、市内の移動にはとても便利であった。ただし、朝夕のラッシュ時には主な交差点で渋滞が発生し、全然進めなくなる。それ以外の時間帯や区間では道路状況も良く、快適に運行されている。車内でちょっと感じる違和感は「ゴミは屑籠に入れる」とか「床に唾を吐かない」などの標示があることであるが、実際にそうした場面に出会うことは無かった。

駅のタクシー乗り場を利用すれば何の問題も起こらないが、駅の出口やバスの発着場で大きな荷物を持っていれば、しつこく白タクの利用を勧誘される。料金の交渉が必要で、足元を見られるので避けた方が無難である。筆者は秦皇島駅からタクシーを利用したことは無く、専らバス利用であった。

### ■「秦皇島市玻璃博物館」を見学した

海港区内の観光スポットを挙げるとすれば「玻璃博物館」と「秦皇求仙入海処」であろう。普段ショッピングへの興味を持たず、混雑した繁華街へ出掛けるのが嫌いなので、なかなか機会が無かったが、数人で「玻璃博物館」を見学に出掛けた。

「秦皇島市玻璃博物館」は人民広場の東側を走る「文化路」を南下し鉄道線路を越えた場所にある。秦皇島駅前のバス発着場からは8番又は19番の路線バスを利用する。「地道南口」で下車して百メートルほど南に歩いた道路沿いにあった。少し南に行けば港湾地区なので、かつては工業地帯だったと思われるが、現在では周囲に商業ビルも立ち並ぶ市街地になっている。入館前の知識としては、中国初のガラス美術館であり、無料で古代のガラス製品やガラスのジュエリー、ガラスアートの作品が鑑賞できる施設ということであった。

年代物の茶色のレンガ造りの建物に入るとエント

ランスホールでは、天井が高く星空のイメージで光が点在する空間の中に、見上げるほど大きな金色に光るガラスが捻れた水飴のような形で目の前に現れた。天と地と炎がガラスを生み出すということらしく、博物館の総合テーマ「天地凝光」を示すという。

その先が1階の展示室で、広々とした室内の両側の壁が大きなショーウィンドウになって展示物を陳列している。

“古代ガラスと発展”、の展示エリアでは、古代西アジアの遺跡から発掘されたガラス工芸品や中世の教会の塗装ガラス、中国の戦国時代から秦、漢、唐などの時代のガラス製品（装身具、置物、皿、盃、杯、瓶、武具など）が展示されていた。展示内容の説明は漢字のみであったが、あまり不便は感じなかった。左側の壁際にレリーフと人間の塑像を使って中世のガラス工房の作業風景などをリアルに見せていたのは面白かった。次の展示室への入り口はガラス工芸を駆使した優美な門になっていた（右の写真）。

階段で2階に昇ると、“中国のガラス産業の発展”と“現代中国のガラス産業”の2つの展示エリアになっていた。中国のガラス産業の歴史、すなわち此の工場の歴史が年表、写真などで説明されていた。燃料となる石炭の供給地が近く、港や直通鉄道を利用して製品を輸送できる好条件を持っていたことから、1922年、此の地に中国とベルギーの合弁会社により「耀华ガラス工場」が建設され、「中国のガラス産業の発祥地」となり、その後、戦争による中断などを除き国内だけでなく、日本、米国、東南アジア諸国にガラス工業製品を輸出してきたことや、日本の「AGC（旭ガラス）」との関わりなども年表に記されていた。

“現代中国のガラス産業”エリアでは、さまざまな用途に合わせて開発されたガラス製品が紹介されており、人工衛星に利用されているガラス部品などは興味深かった。

最後の4番目の“ガラスの魔法の世界”エリアでは、現代のアーティストによる美術作品が展示されており、中国の伝統も生かした、さまざまな色や形のガラスの造形を鑑賞することが出来る。傍には、ガラス製品の販売コーナーと来館者が万華鏡などを



「秦皇島市玻璃博物館」の内部(2016年11月撮影)

手作り出来る「手工」コーナーがあった。

ガラス芸術の作品を鑑賞するという点では、箱根の「ガラスの森美術館」などの規模に比べようもないが、中国のガラス産業の歴史や最新技術の一端に触れる機会として、半日程度の観光ポイントとしては面白いと感じた。レストランもあり、別棟では各種の企画展示やイベントが催されるようであった。

#### ■“秦皇島”と「秦皇求仙入海伝説」

海港区にあるもう一つの見どころは「秦皇求仙入海处」である。「秦皇島市」の名称が“秦皇島”の存在無くしてあり得なかったことは明白である。「徐福伝説」を知っている日本人の一人としては、「秦皇求仙入海处」の名称が意味するところは十分に想像できたが、“秦皇島”がその様に呼ばれるようになった詳しい経緯は「秦皇求仙入海伝説」が教えてくれた。

伝説の概略は以下のとおりである。「巡遊の途中で行宮に滞在していた始皇帝に「盧生」という方士が『自分は仙人を知っており、命じられれば仙薬を入手してきます』、『準備のための3日間と、船出に良い風水の地を探してください』と願い出た。そこで始皇帝は適地を探させ、2日後に『碣石海岸から遠くない海上に広さが数十里四方の小島があり、島の中に尖った小山があって綺麗な滝が流れ、青い松や柏が茂り、草原は緑で、辺り一面に野の花が咲き、岸辺の砂は細かく、金色に輝き、砂上を歩くと柔らかな絨毯の上を歩くようです』と報告を受けた。始皇帝も上陸して『朕はこれまで多くの名山大河を観てきたが、このように見事な山水は見たことが無い。風も穏やか、波も静かで出航の場所は此処



しかない』と褒めたたえ、翌日の出航の見送りを楽しみに小島の上で一泊した。次の朝、始皇帝は酒を仙山に捧げて拝礼し、兵士に命じて宝玉や島で採集した瓜などを船に積み込み、盧生と弟子たちに出航の命令を下した。船は風に乗る波を越えて進み、始皇帝は小島の岩の庇の上に立ったまま、船が海の向こうに見えなくなるまで見送った。しかし、盧生たちは仙山に着くことも仙薬を手に入れることも出来ないまま、水や食料が尽きてしまった。このまま帰れば、皇帝を欺いた罪で処刑されると考えた盧生は一計を案じ、緞子で「お告げ文」を作り、それに『秦は胡によって滅ぶ』と書いた。行宮に戻って来た盧生から「(偽の) お告げ文」を見せられて動揺した始皇帝は(「求仙」や「不老不死」どころではなくなり)直ちに兵を率いて咸陽に戻った。そして、蒙恬を大将として大軍を派遣し、万里の長城を修築させ、西は臨洮から東は遼東に至る広大な地域で攻勢を取り匈奴を制圧した。その後、人々は始皇帝が立って船出を見送った岩の上に、碑を建てて“秦皇求仙入海处”と刻んだ。この美しい小島は年月を経て、徐々に陸地と繋がったが、人々はその場所を『秦皇島』と呼ぶようになった。」(「百度百科」記事を翻訳)

#### ■“秦皇島”は何処にある？

“秦皇島”の所以は「秦皇求仙入海处」伝説によって確かめられたが、では“秦皇島”は何処にあるのだろうかというのが関心事になった。伝説との関



「秦皇求仙入海处」の入り口(2016年12月撮影)

連で景区内にあるのだろうと漠然と考えていた。そこで、スケジュールを都合して「秦皇求仙入海处」に出掛けた。目指す景区を地図で見ると、秦皇島港の埠頭の東の海岸沿いに在った。「玻璃博物館」の前を過ぎた8番の路線バスが巡回するようであったが、同僚と二人だったのでタクシーで乗り付けた。

しかし、あろうことか、門はがっちり閉じられており、中に入ることは出来なかった(上の写真)。運転手によると、オフシーズンでクルーズ船が出航できないような冬季には開門しないことが多いのだと言う。門横に貼られた景区内の略図で“秦皇島”を探したが見つからなかった。

伝説に関する疑問とともに、「秦皇島」は何処にあるのか? という疑問を抱いたまま、日本に戻る破目になってしまった。(続く)

## あんなことこんなこと 思い思いに

## みんなの広場

### ●「サクラ」さんからのメールをご紹介します。

河野公雄さんは、小学館発行の「中日辞典からの意外な発見」を隔月書かれています。わんりい 261号(3月号)は、化学元素でした。私も同じ小学館の中日辞典を持っているかも、と本箱をさがしました。ありましたあ〜! 1994年発行の中日辞典と日中辞典。紙の辞書は、持ち歩くのは不便で、老眼の進んだ目には、拡大できる電子辞書のほうが便利で、いつの間にか使わなくなっていました。辞書をあらためて開いてみると、囲み記事項目一覧というのがあり、1805ページに元素(化学元素)の表がありました。こんな表が

この辞書に載っていることをはじめて知りました。そこから先の河野さんの“意外な発見”とは、「中国語表記の元素名は、漢字を見ると、その元素の常温での状態(気体・液体・固体)が一目で分かる。気体は气、液体はさんずい(氵)、固体は石偏と金偏の漢字で、結晶質は石偏、非晶質は金偏で表している。」すごい発見です。日本語の元素名もこんなだったら、60年前の高校の化学の授業を嫌いにならなかったのに。

次回はどのような「意外な発見」を教えてくださいか、中日辞典を本箱にしまわずに、机の上に置いて、わくわくしながら待っています。



ご存じの方も多いと思いますが、当地の新型コロナウイルス(新型コロナウイルス)対策の一つに「健康コード(当地では健康碼<sup>jiànkāng mǎ</sup>)」が有ります<sup>注1)</sup>。

健康碼は個々人が所有するスマートフォン(スマートフォン)上に登録され、本人の体温等の健康状態・人の繋がり(家族等)・滞在場所の記録等を各種のコンピューターシステム(電腦系統)で自動的に分析監視して色分けします。健康碼は2次元バーコード(QR 碼)で表示され緑色でなければなりません。黄色や赤色ですと感染者との接触を疑われたり病院で検査を受ける事になります。昨年の冬に入って、姿を消していた新型コロナウイルス感染者が再び現れたため(成都市で 10 人余り)、病院や銀行や鉄道駅や市場に入る時、それに感染者が居ない周辺地域へ移動する時等に緑色の健康碼を提示しなければならなくなりました。

健康碼の申請手続きは、基本的に個々人が所有するスマートフォ上で、健康碼電腦系統の外国人用アプリケーション(APP)から旅券番号・名前・電話番号等を入力するのですが、私の場合、今年 1 月 6 日から始めた申請が受け付けられず、受け付けない理由も表示されない<sup>注2)</sup>ため、想像逞しくしながら先ずは自分の操作を疑って、旅券の名前とは表記が少し異なる永住許可証の名前を入れたり(電腦系統内部では旅券と永住許可証の情報がリンクされていると考えて)、旅券ではなく永住許可証の番号を入れたり、家内名義だった電話番号を自分に換えたり新しく電話番号を自分名義で作って入れたり、WeChat(当地では微信)の口座を作ったり銀行口

を追加して購入実績を作ったり、外国人の健康碼を数多く取得して来た旅行社に申請して貰ったりもしました。多くの場合、申請の審査結果が出るまでに 24 時前後掛かりますが、1 月 6 日に申請を始めてから<sup>注2)</sup>たちまち 3 週間が過ぎました。この間、私と同じ永住許可証を持っていて健康碼を取得済みのKさんと奥さん<sup>注3)</sup>や、成都市直結の相談窓口や、駐重慶日本国総領事館に電話で操作手順を確認して、入力内容を慎重にチェックしながら、申請を繰り返し手を尽くしていましたが、どうしようもなくなり音を上げてしまいました。

そして最後の手段として、四川省の出入境管理局へ出向いて、2 年前に旅券で出入国した最終記録や、昨年書き換えた新しい旅券や永住許可証の情報が、間違いなく記録されている事を確認してから、健康碼を取得できない原因を問合せました。出入境管理局では、事の成り行きに興味を持った職員が 2 人 3 人 4 人と集まって来て、手分けして私の記録を確認したり、健康碼申請の入力内容をチェックしてくれて、やがて幹部の方も出て来られて、話し合った結論が「健康碼電腦系統に問題が有る」でした(出入境管理局の丁寧な対応に感謝!)。その問題とは「入国時の旅券番号がその後書き換えられた場合に健康碼電腦系統が受け付けない」でした。これは明らかにバグ<sup>注4)</sup>ですので、出入境管理局から指示された健康碼電腦系統の技術サポート(技術支持)部門へ電話して状況を説明すると共に、入国時の旅券とその後書き換えた旅券の画像を送りました。

これが 1 月 28 日(木)で、その日のうちに技術

支持部門から、クレームを受け付けた旨の通知が届き、それなりの処置を期待して一息付きました。しかし翌日に技術支持部門から電話が掛かって来て、一般的な申請手順が再び繰り返されたため落胆しました。バグとして捉えてないので電腦系統を修正しない訳ですから。その電話で切々と再度状況を説明しましたが、バグとして取り合ってくれたか否か不安なままでした。

翌翌日 30 日(土)には、K さんが心配して私のマンションに立ち寄って下さり、成都市直結の相談窓口で、家内と一緒に状況を説明して下さいました。間もなく相談窓口からクレームを受け付けた旨の通知が届きましたが、バグとして処置して貰えるか期待半分でした。

そして 31 日(日)、成都市直結の相談窓口から電話で「電腦系統を修正し、申請内容を登録した」と知らせが入りました。直ぐにスマート機上で健康碼 APP を起動した所、健康碼が登録された旨の表示が有り、家族情報等を追加すると、緑色の健康碼が表示されました(上の写真参照/中央部をぼかしています)。申請を始めてから 4 週間近く掛かって、やっと健康碼を取れた時、半信半疑で健康碼を何度も見直して確認した後、感激して家内と一緒に「来了、来了(やったやったの意味)」とはしゃぎながら肩を抱き合っていました。

同時に、バグを指摘してから数日で(休日返上で)電腦系統が修正されて健康碼を取得できた事に驚き感心して<sup>注5)</sup>、当局の健康碼のような新型コロナウイルス対策への疾速な対応ぶりに「平

時ではない」並々ならぬ意識を感じ、日本も見習わなければならないと思いました。

## ■追記

当地では PC の普及を経ずにハンディコンピューターとも言える智能手机(スマートフォン)が急速に普及し社会生活の形態を変えつつ在ります。智能手机は、買物代金を支払ったり情報収集する程度でしたら無くても済むのですが、新型コロナウイルスのような疫病が流行りその対策の一つとして健康碼のような制度が現れ人の生き死にや生活に関わる必須の道具になりました。数年前から色々な公的サービスを受ける時にはいつも、身分証明書を各種の電腦系統に読み込ませ利用者の行動を記録するようになっていました。病院や銀行のカード、



それに市場や通信販売の代金支払いに広く使われている智能手机上の WeChat Pay(微信支付)は元々身分証明書にリンクされていますし、長距離バスや鉄道の切符、それに地下鉄や市内循環バスの回数券カード(乗車時に読み取ります)を買う時にも身分証明書が必要で、個人の利用状況が電腦系統に記録されます。そしてこれ等の情報が日本より土地も人口も一桁以上大きい当地で共用されつつあります。健康碼は、前述の個人情報何年も前から電腦系統に貯め込んで来た当地ならでは実現できる対策の一つです。

日本を振り返って見ますと「社会体制が違ってても遣るべき事は不評を買ってでも実行しなければならない」と強く感じます。また「民主主義のコスト」と言うのではなく「平時では無い」意識が必要だと痛感します。ただ日本では個人

番号でさえ普及出来ていませんので周回遅れの状況にも至らず、講じられる手段が限られるのではないかと心配です。

## ■注釈

1) 少し専門的ですが下記に詳しく解説されています。

『「健康コード」はデータドリブン政策の証、中国の新型コロナ対策、五味明子』

<https://ascii.jp/elem/000/004/015/4015626/>

健康碼電腦系統の開発には特別難しいアルゴリズムを要しませんが、多くのプログラム設計者の頭数と費用が必要で、それを速やかに手当した当局の実行力に感心します。なお、情報の記録形態は全国統一されている物も有れば省或いは都市等の地域によって異なっている物も有るため地域ごとに運用開始時期が異なり、成都市の健康碼電腦系統は昨年3月頃から、四川省統一版は今年1月から運用されています。

2) 私は2000年に当地へ来て以来、撮影した写真の整理や編集(トリミング・色調整等)や電子メールの遣り取り等のために専らPCを使い、遠隔地の人と話す時は胸ポケットに収まる小型の旧来の携帯電話を使っていて(昔市場で何度もスリに取られたためです)、智能手机を使えません。今時の言い方をすれば私は「石器時代人或いは社会的弱者」です。

成都市では昨年5月頃から外国人が智能手机上で健康碼を取得できるようになりましたが、当時は日本の保健所に当たる小区医院で健康碼に相当する健康證明書を書いて貰えた事と、四姑娘山自然保護区が一般外国人の入域を禁止したため出入り時のトラブル(私は管理局工作証と永住許可証を持っていますので出入り出来る筈ですが)を心配すると共に四姑娘山の自宅の外壁装飾(当局の環境美化プロジェクトで今は右写真のようになりました)の日程が何度も後へシフトしたため、昨年5月中旬から今年1月初めまで四姑娘山から出られませんでした。

一方、冒頭に述べました様に昨年の冬に新型コロナウイルス感染者が再び現れ、その時限対策とは言え、智能手机上の健康碼無しには生活困難になってしまいました(四姑娘山には感染者が居ませんので健康碼は不要で食料等も宅配して貰えたので生活出来ま

したが、成都から四姑娘山へ入る時に健康碼が必要になりました)。又その頃には小区医院で健康證明書を書いて貰えなくなっていましたので、自分専用の智能手机を買って健康碼を取得しなければならなくなっていました。そのため四姑娘山での仕事が一区切り付いた今年1月6日に四姑娘山から成都へ下りて来て最新のiPhone12miniを買って、健康碼を申請し始めました。遅ればせながら健康碼に至ってやっと「当地では智能手机無しには生活出来なくなった」事を覚りました。しかし私は智能手机を全く使わなくて操作に覚束無かったためと、成都に滞在していた家内が1日で緑色の健康碼を登録出来た事、それに私は感染地域に居たり感染者に接触した事が無いので1~2日で取得出来ると思い、申請作業を家内に丸投げしてしまいました。

- 3) Kさんは有機農産物を加工販売している日本人企業家で、25年前から成都に居を構え中国国内や東南アジアで事業を展開し、日本にも製品を輸出しています。Kさんは当地で長年ビジネスをされているだけあって中国語も少し話せ、成都出身の奥さんや息子さんと暮らしています。私は四姑娘山周辺に生育する漢方薬の調査の仕事でKさんと知り合い、数少ない永住許可証も私同様に取得されている事から懇意にさせて頂いています。
- 4) コンピューター用語で、電腦系統の仕様や設計の誤りをバグ(虫)と言います。
- 5) プログラムの一部手順を手作業で処理して私の健康碼を登録したのかも知れません。また「入国時の旅券番号がその後書き換えられた場合」のプログラムは、実装されていたものの、誤動作していた可能性も有ります。



自宅の外壁装飾。当局の環境美化プロジェクトでこのようになりました。



# ヨーロッパの先住民・ケルト族(1)

和田 宏

## ■ヨーロッパの先住民・ケルト族

古代ローマ帝国があった頃、ヨーロッパ大陸の大半の地域に住んでいたのはケルト人である。ケルト人は、ヨーロッパの先住民であり、イングランド島にも達した。イングランドのケルト人をブリトン人と呼ぶ。イギリスの島が“大ブリテン島”と言うのは、ブリトン人から来ている。ネロ皇帝の紀元1世紀頃にはローマ帝国軍が島に乗り込んで来た。ローマ軍の軍人に凌辱されたケルト人イケニ族のブーデイカと言う女王が、娘2人を乗せ2頭立てのチャリオットに乗って、ローマ軍と戦ったが敗れ、毒をあおって自害したという伝説がある。パリ、ウィーン、ミラノ、マドリッドといった多数の都市名、アルプス、ドナウ川、ライン川などの名称もケルト語に由来する。

紀元5～6世紀に活躍したブリトン人の伝説上の英雄・アーサー王は、岩に刺さって、どんな力持ちの男でも抜くことができなかつたエクスカリバーと言う剣をスーッと抜き取ったことで真の王様だとあがめられ、南部イギリス王になった人である。アーサー王は、中・北部ヨーロッパからイングランド島に來襲してきたアングロ・サクソン族（ゲルマン民族の大移動の一部）と、このエクスカリバーの剣を振りかざして戦った。アーサー王の逸話は種々に及んでいる。

アングロ・サクソン族は、その後も波状的に押し寄せ、7世紀頃にはイギリスは最終的にアングロ・サクソン族に支配された。イギリスとかイングランドと呼ばれるのは、アングロ・ランドが由来である。先住民のケルト人は、スコットランドとウェールズ、それに海峡を隔ててアイルランド島に逃げ込んだ。

ケルトとは、古代ローマ帝国の人達から見て、“よそ者”と言う意味の“ケルトイ”から来ている。森羅万物に神が宿ると言う精霊信仰があったケ

ルト人は、言葉にも魂が宿ると考えて文字で残すことを好まず、全て口承で伝えた。文字が無かつたため、詳細な歴史が判らない“謎の民族”と言われていたが、逆にこれが魅力となって、今はケルト研究が進められている。カボチャをくり抜いたランタンや仮装をする10月31日の“ハロウィン祭”は、元々は秋の収穫に感謝し、先祖を招き入れ、魔女を叩き出すケルト人のお祭りであった。現在のグレゴリオ歴の前、ケルトの暦では10月31日が大晦日で、11月1日は元日となる。Hallowは神聖化するという意味である。All Hallows' Eve・万聖節の前夜をケルト語ではHallows' even と表記するので、発音するとハロウィンと聞こえる訳。このお祭りの風習がアメリカに伝わった際、こども達が近所を回って、“Treat or Trick?”と言いながら、お菓子などをねだる風習となって残った。付け足しだが、イエス・キリストが12月25日早朝に生れたとするのは作り話である。1年で一番昼間の時間が短くなる冬至に対して、北ヨーロッパの人々が恐れを抱き、どうぞ太陽が無くなりませんようにと祈ったり祭ったりしていたが、その祈りが神さまに通じて再び少しずつ昼間の時間が長くなって来たので、12月25日の日の出の頃に救世主キリストが誕生したとする説が徐々に支持され、中世に定着したのである。

## ■ケルト十字

ケルト人の宗教は、自然崇拝の多神教で、靈魂不滅を柱とするアニミズムの教義をもっていた。そんな多神教のケルト世界に、宣教師聖パトリックが、AD432年、キリスト教という唯一神を掲げてやって来た。丸い太陽を神様として信じていたところに、キリスト教の十字架が合体して、独特のケルト十字が出来た。



ケルト十字



横浜の外国人墓地のケルト十字の墓（影は和田）

私は2020年2月1日（土）、港みらい線の終点『元町・中華街』駅から徒歩10分で行けるといふ県立神奈川近代文学館の文学講座を聞きに行こうと思つて出掛けた。寒い日だったが、やっと辿り着いた県立神奈川近代文学館の文学講座は3000円も取ると言うし、予想に反して関心の無い内容であることが判り、踵を返した。ところが、途中に通過した横浜の外国人墓地の中に、『ケルト十字』を金網越しに見つけて狂喜！何故なら、1500年以上の時間と、イギリス・アイルランドと日本との空間を超えて、ケルト文化に遭遇したからである。3百円払つて外国人墓地を見学した（上の写真）。中国古典に詳しく、『李陵』『山月記』などを書いた中島敦（1909～1942）は、横浜高等女学校（現・横浜学園高等学校）の教員をしていた時、外国人墓地をよく散策し、アメリカ総領事ジョージ・シドモアが眠る墓の傍に腰をおろして休憩したそうだ。中島敦の詠んだ“朝曇り この墓原に吾がゐれば 汽笛とよもし 船行くが見ゆ”という歌碑も、シドモアの墓の傍にある。お墓好きで短歌が好きなら、私と同じ趣味だ。

この周辺には、大佛次郎館、イギリス館、山手111番館、『港の見える丘公園』などもあり、わりりの読者の中には行ったことがあると言う人も多いのではなからうか。私は初めて訪れた場所だったが、中でも、『港の見える丘公園（1962年開園）』は素晴らしいところだった！遠く、横浜港やベイブリッジが見え、海の青さに空の蒼。明治維新のあと建

てられた洋館が異国情緒を誘い、まるで別世界に居るようだった。庭園には、まだ花は咲いていなかったが、5月になれば薔薇などが咲いて、さぞかし綺麗だろうと想像した。寒風の中、若いカップルや異人さんが楽しそうに散策していた。蛇足だがこの日はコロナ感染のニュースはまだ報じられていなかったよ（笑）。

明治維新直後の1871年には津田梅子も、この港からアメリカに赴いた。2024年には梅子の肖像の5000円紙幣がお目見えする筈である。歌謡曲としては、平野愛子が歌った『港が見える丘』（1947年リリース）や、いしだあゆみの歌った『ブルーライト・ヨコハマ』（1968年リリース）があり、後者は、この港の見える丘から夕闇迫る横浜港を望んだ光景を歌っていると言われている。

この時、出来た趣味の短歌10首。

- ♪横浜の 港の見える 丘に来て  
ケルト十字が 異国へ誘（さそ）う
- ♪過去未来 東西結ぶ 横浜に  
ケルト十字は 寒風に立つ
- ♪横浜の 外人墓地で 5世紀の  
ケルトイ人の 風習に逢う
- ♪横浜の 寒風すさぶ 丘の上  
異人は眠る 海を見ながら
- ♪外国船 汽笛の音は 寒風の  
日本で眠る 異人の為か
- ♪独り来て 初めて見しの 丘なれど  
港の見える 丘はデジャヴユ
- ♪横浜の ベイブリッジを くぐる船  
高い橋脚 広き海なり
- ♪霧笛橋 欄干に寄り 海見れば  
吾（われ）外（と）つ国へ  
誘（いざな）われるや
- ♪横浜に 来たくなるのは 港あり  
出会いと別れ 今もときめく
- ♪輝ける 横浜港の 海の青  
維新の海も かくやありけん

（つづく）

## 【わんりいの催し】

皆様のご参加を歓迎します

### ♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体力を抜いて気持ちよく発声しよう！  
声は健康のバロメーター！！

\*動きやすい服装でご参加ください。\*

- 会場：まちだ中央公民館・視聴覚室
- 日時：4月20日(火) 10:00~11:30  
5月18日(火) 13:00~14:30
- 講師：Emme [エメ] (歌手)
- 会費：1,500円 (講師謝礼・会場費)
- 定員：15名 (原則として)
- 申込：☎042-735-7187 (鈴木)

~~~~~

❀❀ 中国語で読む 漢詩の会 ❀❀

漢詩で磨く中国語の発音！中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

録音機をお持ちの方はご持参ください。

- 会場：まちだ中央公民館
- 日時：4月11日(日) 10:00~11:30
視聴覚室
5月23日(日) 10:00~11:30
第3・4学習室
- 講師：植田渥雄先生
桜美林大学名誉教授
現桜美林大学孔子学院講師
- 会費：1,500円 (会場費・講師謝礼)
- 定員：20名 (原則として)
- 申込：☎090-1425-0472 (寺西)
Email:ukiuki65jpjp@yahoo.co.
(有為楠)

■ 4月・5月定例会

- ▼ 4月8日(木) 13:30~
- ▼ 5月11日(火) 13:30~
三輪センター 第三会議室

■ ‘わんりい’ 発送

- ▼ 5月号の発送
4月29日(木) 10:00~
三輪センター 第二会議室

☆ 会費納入のお願い ☆

わんりいは、会員の皆様から1800円の会費をいただいで運営しています。大半は2月と8月を除く年10回、会報を印刷し発送する費用に充てています。会費の納入をお願い致したく、4月号に、郵便振替用紙を同封致しますのでよろしくお祈いします。6月末までにお手続きいただくと幸甚です。

~~~~~

### ☆ ネット版 ‘わんりい’ 継続のお知らせ ☆

わんりい250号(2020年1月号)で、わんりいのホームページはしばらくお休みするとご案内致しましたが、実際は現在も継続して、ご覧いただいております。これはわんりいを立ち上げた田井光枝さんがボランティアで掲載の労を取ってくださった結果でした。

2021年4月からは、わんりいが団体として引き継ぎ、掲載を継続してゆくことになりましたのでお知らせ致します。これからも美しいカラー版をネット上でお楽しみください。

~~~~~

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎します
年会費：1800円、入会金なし

郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい
10月以降の入会は、当年度会費1000円。

■ 問合せ：044-986-4195 (寺西)

‘わんりい’ 262号の主な目次

寺子屋・四字成語(41)熟能生巧……………	2
「日译诗词」(11) 漢代楽府『有所思』……………	3
「漢詩の会」だより46 杜甫『月夜憶舍弟』……………	4
「中原」雑感(11)『中原経済区』……………	7
中国の面白い神話伝奇物語(5)……………	10
秦皇島をご存知ですか(3)……………	12
四姑娘山写真だより④……………	15
『ヨーロッパの先住民・ケルト族』(1)……………	18
‘わんりい’の催し・お知らせ……………	20